

研究目的. 心理療法において, 被治療者(母親)の影の自覚について検討することと目的とする.

研究方法. 筆者が担当している心理相談・治療における登校拒否児の母親を対象とした。月に2回〜3回の母親の心理治療を通して, 母親, 及び子どもの心理的発達への援助にかかわった。特に今回は一事例をとりあげて Case 検討を行なう。

研究結果. 被治療者(母親)が自己の影の存在に気づいて, 自己のあるがまの姿を承認していけるようになる。それに従い同居している祖母(被治療者の実母)の心理的・肉体的なひき込みが軽くなり, さらに登校できなかつた子どもの状態が改善される。